

多文化コミュニケーション学科の人材育成に関する目的と3つのポリシー 【学士（学術）】

学部の人材育成に関する目的（甲南女子大学学則 第2条）	学科の人材育成に関する目的（甲南女子大学学則 第2条）
現代のグローバル社会における社会的・文化的諸課題を理解し、実践的な外国語運用能力と高いコミュニケーション能力によってさまざまな領域で中核的・支援的な役割を果たすことのできる人材を育成する。	実践的な語学力(英語とアジア言語)を習得し、国際的教養及び行動力を身につけ、多様な社会的・文化的背景をもつ人々と協働してグローバル社会における課題解決に努め、国際・地域社会で活躍できる人材を育成する。

ディプロマ・ポリシー			カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
DP1 知識・理解	(1)	英語とアジアの言語について理解している。	<p>グローバル化が進む中、異なる社会で暮らす人々の異なる文化的背景、異なるものの考え方を持った人々と協働し、共生していくために必要となる知識・教養、コミュニケーション能力を修得し、実践的な活動的学習のなかで多文化共生社会に貢献できる能力を身につける。</p> <p>1. 英語、World Language科目によって、実践的な外国語運用能力を身につける。また、日本語運用能力も向上させて、グローバル社会で通用する言語能力、コミュニケーション能力を養う。また、メディアリテラシーを向上させ、主体的に情報に相対する能力を養う。</p> <p>2. 異なる文化・社会を理解するために求められる知識・教養を身につけ、社会にはたらきかける協働的作業を実践するために必要となる、調査・分析・企画・チームビルディング・リーダーシップのスキルを養う。</p> <p>3. 長期短期の語学留学、文化研修、ボランティアプログラム、インターンシップなどの活動的学習によって、他者と協働して理論と実践を結びつけて課題を解決する能力を身につける。</p>	<p>多文化コミュニケーション学科では、文化的背景が異なる多様な人々からなる社会で生きるための、ことば・国際教養・行動力を総合的に学び、確かなコミュニケーション能力を身につけます。具体的には下記のような学生を求めます。</p> <p>1. 関心・意欲・態度 自分とは異なる文化や社会に強い関心を持ち、ステレオタイプを脱して異文化理解を探究する人 世界に目を向け、多様な文化的、社会的背景を持つ人々に出会い、意見を交し合う意欲をもつ人 グローバル社会の課題解決に向けて積極的に行動したいと考える人 外国語の高度な運用能力獲得をめざす人</p> <p>2. 知識・教養 英語、韓国語、中国語、インドネシア語のいずれかの言語の基礎的な力（CEFR A2レベル）を持っている人 グローバル社会で生じる様々な課題に対する基礎的な知識を持っている人</p> <p>3. 思考力・判断力・表現力 グローバル社会の中で多様な人々と関わりながら、批判的思考力、論理的判断力を駆使して自身の意見を主体的に伝えられる言語表現力を持っている人</p> <p>4. 協働性・主体性 グローバル社会や地域社会の中で生じる様々な課題を理解し、多様な国や地域の人々の文化的背景に配慮しながら協働し、より良い社会を構築していく主体性を持っている人</p>
	(2)	国内外において多様な文化的背景を持つ人々とコミュニケーションをとるために、文化・民族・社会問題などについて理解している。		
	(3)	社会貢献や国際貢献の現状と課題についての基本的な知見を持っている。		
DP2 汎用的技能	(1)	グローバル化が進む社会で、多様な文化的背景を持つ人々と積極的に関わりを持ち、コミュニケーションをとって協働するために十分な外国語と日本語の能力を身につけている。		
	(2)	協働の場で生じるグローバル社会ならではの問題を理解する際に、メディアを主体的に読み解き活用できる。		
	(3)	問題の基本的理解にもとづいて課題設定を行い、解決のために行動を実践にうつすことができる。		
	(4)	課題解決のために必要なリーダーシップをとることができる。		
DP3 態度・志向性	(1)	多様な人々・文化に対する開かれた好奇心を持ち、柔軟な心で課題解決に向かって進んでいけるマインドセットを持っている。		
	(2)	自律的、自主的に学習・研究・活動に取り組み、情報に批判的に向き合うことができる。		
	(3)	自らの経験から得た知見を他と共有し、社会に自分を還元することによって、多文化共生に向けて社会参加・社会貢献に積極的に取り組む志向性を持っている。		
DP4 統合的な学習経験と創造的思考力	(1)	留学・国内外での研修・インターンシップ・ボランティアなど、社会の現場での学びを通して自らの体験を言語化できる。		
	(2)	言語能力を活かしてコミュニケーションを取り、情報を発信することができる。		
	(3)	多様な人々と効果的なネットワークを構築し、チームワークによって多文化社会における問題の解決に協働的かつ創造的に当たることができる。		